

小学校中学年のみなさんにすすめるブックリスト

	本のだい名	書いた人	しゅっぱん社	お話の内容
1	先生、しゅくだいわすれました	山本悦子	童心社	「先生、おれ、たぶん明日しゅくだいわすれます」 そんな言葉が聞こえる教室…いったい何があったのでしょうか。
2	黒ねこサンゴロウ1 旅のはじまり	竹下文子	偕成社	ケンくんが会った、黒ねこのサンゴロウ！かれが見つけたいお室のなかみは何だったのか？
3	未来を変えるメッセージ みんなのSDGs	水谷孝次 & MERRY PROJECT	リベラル社	未来の地球を守るために、誰かの笑顔を守るために、私たち一人ひとりができることとは…？
4	せかいいちうつくしいぼくの村	小林豊	ポプラ社	日本から6200キロ離れたアフガニスタンという国で、戦争の中でも明るく力強く生きる人々のお話です。
5	海をかつとばせ	山下明生	偕成社	野球少年ワタルが、波をめがけてバットの練習をしていると…。文と絵がピッタリ！さわやかファンタジー！
6	みずとはなんじゃ？	かこさとし	小峰書店	朝起きて、顔を洗う。うがいをしたり、飲んだりする。水とは、どんなもの？
7	日本のことばずかん そら	神永暁	講談社	あけぼのって何？ 空をイメージする日本語がいっぱい。見てわかるビジュアル日本語ずかんの第1巻です。
8	神様のパッチワーク	山本悦子	ポプラ社	家族にはさまざまな形がある。みんなすてきな毎日を生きている…そんなことをしみじみと感じる物語です。
9	鬼が出た	大西廣	福音館書店	鬼とは一体何だろうか？ 鬼の本当のすがたをさがっていく『鬼の百科』です。
10	ふしぎ駄菓子屋銭天堂	廣嶋玲子	偕成社	幸運な人だけがたどりつける不思議な駄菓子屋。女主人・紅子がすすめる駄菓子は、どれもその人にぴったりのもの。でも、食べ方や使い方をまちがえると…。
11	はれときどきぶた	矢玉四郎	岩崎書店	「あしたの日記」をかいいたら、どどんびっくりする事がおこっていくぞ！こんなことがおきたら、みんなならどうする？
12	にげてさがして	ヨシタケシンスケ	赤ちゃん&MAMA社	にげるために、さがすために、きみの足はついていく。そして、すきに近づくためにある。
13	盆まねき	富安陽子	偕成社	なつちゃん、お盆におじいちゃんたちから聞いた愉快で不思議なお話と、そのあとになつちゃんにも起こった本当の不思議な出来事。
14	こおり	前野紀一	福音館書店	こおりには、わたしの知らない、ものすごい力があつたのです。その力とは…
15	図書室の日曜日	村上しいこ	講談社	学校の図書室は日曜日はどうなっているのか知っているかな？
16	三びきのコブタのほんとうの話	ジョン・シェスカ	岩波書店	だれもが知っている「三びきのコブタ」のお話。今までオオカミの言い分を聞いたことがありますか。しかし、誰も知らないひみつが…。
17	100万回生きたねこ	佐野洋子	講談社	とらねこの自慢は100万回死んで100万回また生きたこと。ある日、白いねこに出会って…。
18	手塚治虫	国松俊英	ポプラ社	子どものころからマンガを書きつけ、日本に大きなマンガ文化をつくりあげた手塚さんの人生が書かれています。ずっと続けていくことの大切さを教えてください。
19	やまんばのにしき	松谷みよ子	ポプラ社	こわいやまんばのところに もちをもっていかなければなりません。
20	チョコレート戦争	大石真	理論社	「ケーキをかつぎだせ！」「わからずやのおとなたちをやっつけるんだ。」
21	魔女の宅急便	角野栄子	福音館書店	魔女のキキは、なかまの黒ネコと商売をはじめました。そして…。
22	ながいながいペンギンの話	いぬいとみこ	理論社	南極のペンギン、ルルとキキがいろんなけいけんをしてそだっていきます。
23	エルマーのぼうけん	R.S.ガネット	福音館書店	りゅうのこどもとエルマーで、動物島をにげだせるでしょうか。
24	マクブルームさんのすてきな畑	フライシュマン	あかね書房	一日に三度しゅうかくできる畑をもっているマクブルームさんのお話。
25	大どろぼうホッツェンプロッツ	プロイスラー	偕成社	コーヒーをうばった大どろぼうをおいかけて、少年たちが大かつやくします。
26	長くつしたのピッピ	リンドグレーン	岩波書店	みなし子のピッピが、たのしいことをつぎつぎにやっています。
27	小さなスプーンおばさん	ブリヨイセンA	学研	ティースプーンぐらいに小さくなったり、もとにもどったりするおばさんのゆかいな物語。
28	花さき山	斉藤隆介	岩崎書店	だれも知らない山おくの花さき山では、今まで見たこともねえ花がさいている。この花がなくてこんなにきれいだったか。それはこうしたわけじゃ。
29	じゅげむ	川端誠	クレヨンハウス	落語の中でいちばん有名な、長い長〜い名前のお話です。
30	あらしのよるに	きむらゆういち	講談社	夜のあらしをさけて、ヤギが小屋で休んでいると、だれかが入ってくる音がしました。それはオオカミでした。